

結論で会合 町村会 市長・がれき受け入れ

知事、3者連携を強調

全県協議 最終処分場は新設せず

東日本大震災で発生した
がれきの広域処理につい
て、国からの受け入れ要請
への回答期限が六日に迫っ
ているを受け、県は五日

の県議会全員協議会で、回
答文に可否は盛り込まず、
今月十九日の市長会、二十
日の町村会の両会合で結論
を出す方針をあらためて示
した。鈴木英敏知事は、市
町と歩調を合わせると強調
し、「処理のめどもなく表
明すればいいというもの
もない。（県と市長会、町
村会の）三者で連携して被
災地のためになるようにし
たい」と述べた。

県内の処理について、
鈴木知事は市長会、町村会
と協議中と報告。県で受け
入れ基準や処理手順、放射
能の測定方法などを盛り込
んだガイドラインを策定し、
市町が受け入れやすくなる
ように環境づくりをすると
した。市町のごみ焼却施設
で処理する場合についても
言及し、焼却灰は県内外の
民間企業に委託し、処理さ
れていく。最終処分場の確
保に努めたい」と語った。

また、今後は十九日と二
十日にある市長・町村会の
両会合で、一定の結論を得
たいと説明。国への回答に
は、県は市町が要請に沿っ
た判断を進める▽四月中旬に
一定の合意を目指す▽安全
性確保のための基準などの
告示を国に要請する「など
を盛り込むとした。

中嶋年規議員（自民みら
い、三期、志摩市選出）
は、最終処分場確保の見通
しを質問。鈴木知事は「県
内外の民間企業の中で幾つ
か腹案がある。正式要請は
していない」とし、新設す
るのではなく既存の施設を
活用する考えを示した。同
議員はガイドラインの策定
時期も質問し、鈴木知事は
「十九、二十日の市長会と
町村会の会合までには、
（市町に対して）一定のた
き台を示したい」と答え
た。（森川静香）

知事、全面的に否定

「6日に受け入れ回答」報道

東日本大震災で生じたが
れきの受け入れをめぐる、
鈴木英敏知事は五日のぶら
下がり会見で、一部報道で
「県が正式に受け入れる方
針を決め、（国からの協力
要請の回答期限となる）六
日に国に伝える」と報じた
ことについて、「受け入れ
を伝えるということではな
い」と述べ、全面的に否定
した。

鈴木知事は、同日の県議
会全員協議会で、国からの
協力要請に沿った判断を市
町ができる環境づくりを進
める▽今月中旬の市長会と
町村会で一定の合意を目指
す▽国に安全性の確保や住
民の不安解消を求める「の
三点を報告したと説明し、
「全協と六日に国に回答す
る内容に相違はない。受け
入れを決めたとか、受け入
れるということではない」
と話した。

また、ほかの自治体の動
向に対しては「（受け入れ
を）表明しがれきが動け
ばいいが、動いていない」
と指摘し、「ばっば、ばっ
ばと手を挙げる人と比べる
と、（県の）動きは遅く見
えるかもしれないが、実際
にいつがれきが動くかが大
事」との考えを示した。

一方、受け入れの前提と
なる安全基準については、
「国がしっかり説明できて
おらず、不信感が国民全体
にあると認識している。本
来なら統一基準でやれたら
いいが、そうではないの
で、国基準より安全な基準
を設定していかざるを得な
い」と述べた。



がれきの受け入れについての対応を説明する鈴木知事（中央）＝県議会議事堂で



ぶら下がり会見する鈴木知事＝県庁で